

佐藤 透¹⁾

Toru SATOH

1) 医療法人社団涼風会佐藤脳神経外科

〒729-0104 広島県福山市松永町 5-23-23

<http://www.ryofukai.jp/>

<http://poru0665.blog92.fc2.com/>



サンデー・レーサー (Sunday Racer)

ポルシェ

ポルシェと聞いて、みなさんは何を思い浮かべますか？ おやおや，“真っ赤なポルシェ”って言うのはどこの誰？ ふる～いハナシだけど、あの話題は山口百恵の「プレイバック Part2」，“真っ赤なポルシェ～♪”。当時のNHKは企業宣伝ダメってことで、「レッツゴーヤング」(古～い)など他の歌番組じゃいつも，“真っ赤な車(くるま)～♪”だった。たしか1978年のNHK紅白歌合戦のトリで初めてポルシェ解禁，“真っ赤なポルシェ～♪”と歌ったんだよね。よかった！、ほんとお～“バカにしないでよ～お～！”ってところかな。「神田川」のかぐや姫，“24色のクレパス(さくらクレパス)”を“24色のクレヨン”に変更してはいけません、ってことできっぱり出場辞退、これはご立派な決断、拍手喝采！ あれあれ、始めっからチト脱線気味だけど、大丈夫。

ポルシェって言えば、やっぱりリアエンジン・リアドライブRRタイプの水平対向空冷(水冷)エンジン。一度は乗ってみたい高性能スポーツカー、憧れちゃいます。フェルデナント・ポルシェ、息子フェーリー・ポルシェの設計・製造した356が誕生したのが、1948年9月。往年のポルシェ356は、356.001・356/2(1964年)から、356プレA(1950～1955年)、356AT1型(1956～1957年)、356AT2型(1957～1959年)、

356B型(1959～1963年)、356C型(1963～1965年)まで、79,250台が生産された。ポルシェのトレードマーク、あの愛嬌のある“カエル顔”は、1964年に初めて登場したポルシェ911：きゅういちいち(日本語)、ナイン・イレブン(英語)、ノイエルフア(独逸語)。初代901型(1964～1974年)、2代目930型(1974～1989年)、3代目964型(1989～1993年)、4代目993型(1993～1997年)、5代目996型(1997～2004年)、6代目997型(2004～2011年)、そして現在の7代目991型(2011年～)まで、48年もの間、あの風貌とリアエンジンRRスタイルが、連綿と続く。こりゃあ～驚き桃の木山椒の木、尊敬するなあ。

ポルシェにハマる

“いつかはポルシェ”っていう想いも、日々の忙しさにどこかに置き忘れてしまっていた。とある1995年の夏日、ご当地国道2号線脇のショールームに、新型ポルシェを発見した。れれっポルシェ、ポルシェがあるじゃん、あっそうだあ、ポルシェだ・ポルシェがそこにある。嫌がるガキンチョを寝付かすのはひと苦労だけど、かわいい寝た子を起こすのは至極簡単。それじゃ～まずはご試乗してみましようか。ディーラー営業担当の甘～いひと声，“ポルシェを着る”って言いますよね、ころりイチコロとはこのことなり。てなわけで、1996年3月、ポルシェ993、あの空冷最終モ

デルをついに手に入れた。やっぱりポルシェだあ、ポルシェじゃな。これからドゥプリぶりぶりポルシェに嵌る=ハマることになっちゃうんだよね。

レースへのお誘い

2012年の新春早々、岡山国際（TI）サーキットで4月29日に開催される2012 Porsche Racing Experienceのご案内が届いた。これまで走行会やパレードランにちょちょこご参加してたけど。しかし、タイムアタックのあるいわゆる“レース”には、自慢じゃないけど、一度たりとも出たことはない。今回の催しは、自分のペースで走って、その結果周回のベストタイムでトップドライバーを争うレース。クラス混合20台限定、JAF公認のサーキットトライアルとなる。公式車検→ウォームアップ走行→タイムアタック2回（heat-1・2）。走行前のブリーフィング、プロドライバーの景山正美・高木真一らによるドライビングレクチャーもある。オマケにクラブハウスでケータリングサービス=昼飯もついてくるってさ。さあて出るかいな、出てみるかな、よっし出てみるどお～お。ほな舟くん（3男）、どうじゃい、おみやあ～もいっしょに出てみるかな。ただちにハナシがまとまって～、そいじゃおふたりさま～お申し込みどうぞお。

2012 Porsche Racing Experience@岡山国際（TI）サーキット

4月29日の日曜日（サンデイ=サンデイ・レーサー）、見事な五月晴れ～薫風かおる朝、チト早起きして体調を整える。6:30 福山西 IC 発～山陽道～和気 IC～岡山国際サーキット 8:00 着（図1）。10:00～プラクティス走行、うっしやいこかあ～あ。最初の1周目はタイヤを暖めるウォーミングアップ、酔っ払いまがいの蛇行運転、ちんたらたらたら。2周目からはOK、それいけレッツゴー。右1コーナー～左2コーナー、



図1 2012 Porsche Racing Experience



図2 2012 Porsche Racing Experience- Heat-1

右3コーナーはアトウッドコーナー、この直前に2速にシフトダウン、上り勾配でバビューンとアクセル踏み込む、あれあれレレレッツ～あっちゅう間に右回転し始めた。走馬灯のように流れる美しい緑の風景にうっとり、してるバヤイじゃねえ。すぐさまカウンター入れて、左寄り～路面からはみ出さず、ちゃっかり後ろ向きで止まってくれた。こいつトラクションちょっと利きすぎとちゃうん、ふ～うやれやれ。ってところを、後続のわが息子=舟くんが通り過ぎる。心配する気配はぜんぜんなし。どうしょ～んって顔でチラ見イチベツして、走り抜けやがったでな。こんにゃやろ、オヤジの一大事になんとせん。ってもなんもでけんっちゃうの、ご納得。

11:30から本番=Heat-1（図2）、こりゃあ～慎重に、でもやっぱりかなけんてな。スピンを喫した右3コー



図3 2012 Porsche Racing Experience- Course Out-1



図4 2012 Porsche Racing Experience- Course Out-2



図5 2012 Porsche Racing Experience- Back to the paddock

ナーは3速でがまんして、緩い下りのバックストレッチは目いっぱい踏み込んで、50m手前で3速ブレーキしてヘアピンに突っ込んで、下り勾配を立ち上げる。S字を堪えて、微妙にドリフトどりどり。最終コーナーを落とさず、ありゃあ～、ごぼう抜きで追い抜いち

やる。メインストレッチをまたまた5速まで踏み込んで超加速してブイブイ、右1コーナー直前で3速まで超減速して。してして～あれあれ、ブレーキが間に合わない。ううう～ん、はみ出しそう、でるでるでるう～ああっ出たあ～、載り面はみ出しで対側に頭が向いて止まっちゃう（図3）。ちょっとブレーキングが甘かったでな、やれやれ。ってところをまたもや舟くんが通り過ぎてく。またまたあ～なんしょ～ん、ほんのチラ見でさっさと加速して追い抜いて行きやがった（図4）。くっそお～オヤジのご無事をちいたあ～確認せんかいな、ぶつぶつ。

午後からのHeat-2は気温も上昇、タイヤも路面もコンディションが変わって、みんな別人となってどっちらけ。はちゃめちな走りは、ちょっぴりピリピリとやば～く危なかったけど、ご無事で何より、やっとこさパドックに戻れた。バック・ツアー・ザ・パドック、やれやれ～れやれや（図5）。

一周 = 3.703 km, 13 コーナーのコース、ラップレコードは1994年に開催されたF1パシフィックグランプリで、あのアイルトン・セナ（ウィリアムズ・ルノー）がたたき出した1分10秒218。今回のタイムアタックの成績は、オイラは1分58秒535、舟くんの1分57秒296にゃあチト負けちゃった。しかるにサーキット表彰式、意外なことに、オイラは堂々GT-1クラスベストタイムで優勝、舟くんはBoxterクラスでお見事優勝。もっともGT-1クラス = Carrera-GTは、オイラの1台だけがご参加だったもんで。ええっ～表彰してもらえるの、ほんまに？ なんでえ～、ええんかいな、てな調子で、チト面食らって。でも、ちゃっかり盾と証明書とメダルをいただいた（図6）。プロドライバーの景山正美・高木真一らとピースで記念写真に収まった（図7）。これは生まれて初めての表彰台 = 大事件だあ。う～ん、なんだか急に嬉しくなっちゃった～やったぜベイビー。

人生はサーキット

ポルシェ・サンデイ・レーサーとして、たっぷり丸一日ポルシェと過ごした。息子とのバトルもあり、楽しい楽しいホゲホゲなお時間とあいなった。これもなかなか～ええもんじゃな。人生はサーキットだあ～あ。



図 6 2012 Porsche Racing Experience- GT-1 Class Championship

たまにゃあ～スピンもするし、ドリフト・どりどり、路面からチトはみ出すかもしれないけれど、まあ～大怪我せんように、事故らんように、これを楽しむがよし。山あり谷あり～起伏のあるわが人生～この長丁場を乗り越えて～日々是好日なり。



図 7 2012 Porsche Racing Experience- Commemorative photo with professional drivers Mr. Masami Kageyama and Shinichi Takagi, my son Shu, and me